

「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」で「リベラルアーツ教育」を推進

本校は、全国に先駆けて「リベラルアーツセンター」を設置しています。当センターは、①リベラルアーツ教育を実践し統括するための活動拠点であり、②その活動を地域・社会に発信する広報や、③リベラルアーツについて研究する役割も担っています。

文部科学省が募集した「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」で採択されている「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」の支援を受け、引き続き2018年度も講演会、研究会や研究交流会などを実施し、図書の実も図りました。

「リベラルアーツ講演会」

技術者に必要な教養を身につけ、豊かな人間性を涵養するとともに、技術者としての視野を広げ、高専生のキャリア形成に役立つよう、学生向けの講演会を、国際・経営などのテーマで次ページ下表のように4回開催しました。

第1回(平和学)では、原爆被爆被害とは被爆直後から現在まで継続する身体的・精神的・社会的被害の総称で、これらの被害は相互に深く関連し合っているため、原爆被爆被害の全体像の解明には諸研究分野の学際的協力が不可欠であると述べられ、残された課題を提示されました。

学生は、「今の科学でも分からないことの方が多いということに驚いた。内容が難しかったが、難しいからこそ興味湧いた」(3年D科)、「科学的に説明できる身体的被害を重視しがちだが、被災者の不安などの精神的被害、差別などの社会的被害も含め判断していく必要があると理解できた」(3C)、「いろいろな角度から考えることができたので、自分のためになった」(3A)、「平和について考えていく上でもっと詳しく知りたいと思った」(4C)などの感想を持っていました。

第2回(経営学)では、企業(組織)における様々な経営方法(従業員の管理方法)について話されました。技術者も多くが企業(組織)で働くこととなりますが、世の中には様々な企業(組織)があります。

講師の宮重教授は広島商船高専流通情報工学科を卒業後、信州大学経済学部へ編入学され、製薬会社勤務を経て富山商船高専(現・富山高専)に着任されたユニークな経歴の方で、「トークが面白くて、聞いていて楽しかった」という感想が多く寄せられ、「初めて聞いた内容で、とても興味深かった。経営学も学んでみたい」(3M)、「自分自身とりあえず大企業に就ければいいと思っていたが、考え直してみようかと思った」(3D)、「自分のマインドをシフトする勇気が生まれた」(3E)といった講演会になりました。



第1回の様子

95.0%

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合



第2回の様子

93.8%

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合



第3回（社会学）では、少子高齢化、ジェンダー格差、「リーダーシップとリベラルアーツ」などが論じられました。学生の感想に、「変化や少数への敏感さを身につけていきたい。想像力、発想力を鍛えて自ら発信していける人になりたい」（4M）とありました。

今回は講師を交えた座談会も企画し、3年・4年担任のご協力で女子学生を中心に26名が講演会を聴講後引き続き参加しました。森田・男女共同参画室長が事前に準備された4つの設問に対するアンケート結果の集計データや個別の意見を取り上げて意見交換を行い、「とても良かった」11名、「まあ良かった」10名という結果でした。



第3回：講演会の様子



第3回：座談会の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合

87.2%

第4回（農業史）では、トラクターの歴史が語られました。

1年生の受講者が多く、「トラクターが人間の生活を大きく変化させていることや、戦争とトラクターの密接な関係も分かった」（1E）、「技術の発達が生世の中に及ぼした影響に興味を引かれた」（1D）、「トラクターと同じように歴史に深く関わったものや機械などももっと知りたい」（1M）、「文系も理系には必要だと思った」（1A）など興味・関心を深めることができました。

貴重な写真を多数提示され、また「日本での開発には地元である安来のたたら製鉄が関わっていた」（3M）ことなどを紹介され、身近に感じられたようです。

演題と同名の著書が中公新書より2017年に刊行されていて、同書は図書館に配架してあります。



第4回の様子

講演内容について「興味・関心が深まった」と回答した割合

93.1%

回	日時	講師・演題	参加者数
第1回	2018年10月26日（金） 16時10分～17時40分	川野 徳幸／広島大学平和センター長・教授 「原爆被爆（被ばく）被害とは何か —科学でわかったこと、わからないこと」	学生20名・教職員14名
第2回	2018年12月12日（水） 16時10分～17時40分	宮重 徹也／富山高専国際ビジネス学科教授 「技術者と企業」	学生32名・教職員4名
第3回*	2019年1月23日（水） 講演会：16時10分～17時10分 座談会：17時20分～18時20分	白波瀬佐和子／東京大学副学長・大学院人文 社会系研究科教授 「少子高齢社会のリーダーとリベラルアーツ」	講演会：学生47名、教職員11名 座談会：学生26名、教職員9名
第4回	2019年2月20日（木） 8時50分～10時20分	藤原 辰史／京都大学人文科学研究所准教授 「トラクターの世界史」	学生101名・教職員5名

*第3回は、男女共同参画室、キャリア支援室、国際交流支援室と共催、FD研修会（男女共同参画）と併催。

2019年度も講演会などを計画しています。皆さんの積極的な受講を期待します。

「リベラルアーツ特別講演」の実施



2018年5月8日（火）10時30分～12時に合同講義室で、ブラウン大学地球環境惑星科学科上級研究員の廣井孝弘氏による「はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の神秘」の講演を、5M・5E・4M・4E・3Cの学生を対象に行いました。

11月9日（金）12時50分～14時20分にアカデミックシアターで、日本政策投資銀行松江事務所長の上定昭仁氏による「故郷への恩返しを胸に ～故郷を離れ故郷を知る～」の講演を、3D・2E・2Dの学生が聴きました。



「リベラルアーツ談話会」

本談話会では、深い趣味を持つ学生を講師とし、趣味の話題について講演してもらいます。その後、教員がその話題を時事問題や社会問題などに関連付けて発展させ、講演を聞きに来た学生の皆さんに議論してもらいます。その目的は、何か結論を出すことではなく、様々な視点や立場があることを認識してもらい、問題意識を共有してもらうことです。

2018年度は下表のように3回開催しました。学生の満足度は97%でした。

この結果を追い風に、2019年度もより充実した談話会の開催を目指していきますので、学生の皆さんはぜひ参加してください。



第5回の様子

回	開催日	講師	演題
第5回	2018年4月24日（水）	IS 宅野 将司	「弱者が強者に勝つには？ 軍事から学ぶランチェスター経営戦略とは？」
第6回	2018年11月19日（月）	5D 小牧 遼太	「あなたの常識は正しいか？ —ゲーテルの不完全性定理とは？」
第7回	2018年12月17日（月）	5D 高津こなつ	「本当の私は誰？ —小説描写の変遷で見るペルソナ」

『日本海新聞』2018年5月12日付に、談話会などの活動を紹介した記事：「米子高専「リベラルアーツセンター」設立3年／技術プラス教養も／学生に自主性、視野広く」（足立篤史記者）が掲載されました。



「読書会」、「ビブリオバトル」

読書会は、2018年度は4回開催し、学科や学年を越えて下記の本を読みました。

『羊と鋼の森』（宮下奈都）、『告白』（湊かなえ）、
『ゼロ弾きのゴージュ』・『よだかの星』他（宮沢賢治）、
『か「」く「」し「」ご「」と「』（住野よる）

「ビブリオバトル」は、発表参加者から面白い本を紹介してもらい、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に会場で投票を行って「チャンプ本」を決定する催しです。

本校では学生図書委員会の主催で、2018年12月19日（水）の放課後にアカデミックシアターで開催されました。



発表参加者

「リベラルアーツ図書」の充実

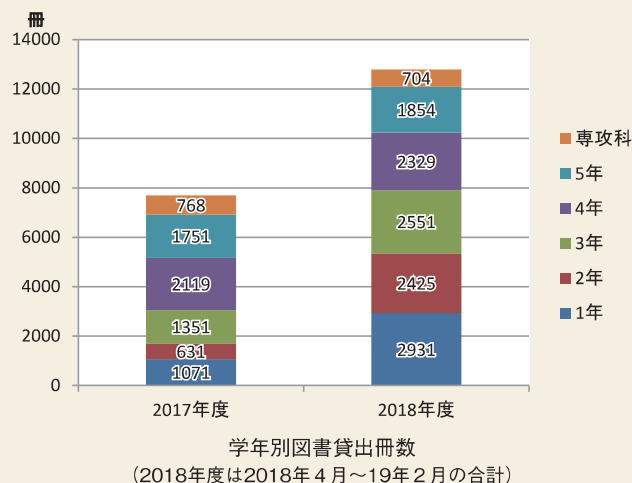
図書館に、リベラルアーツ図書（約800冊）を集めた「リベラルアーツコーナー」を設置しています。

2018年度はさらに500冊の図書を購入しました。講談社学術文庫（330冊）、英語多読・TOEIC参考書（60冊）、その他（110冊）です。図書館に来てみてください。



教養の向上、図書館利用の促進のため、①各学科・科からの図書推薦、②学生からのリクエスト募集、③読書会、④ビブリオバトル、⑤全教員による「学生時代に読むとためになる本」の推薦、⑥英語科による英語書籍の多読・多聴の推進、⑦国語科・社会科・物理科による「読書カード」の導入、⑧学生寮の自学自習時間を利用した読書習慣の意識づけ、⑨新刊図書紹介方法の見直しにより、学生自身の自発的な図書館利用と自学自習機会の増大を図りました。

学生の図書貸出冊数は2017年度の7,691冊から2018年度（2月末時点）は12,794冊に増加し、目標としていた10,500冊を達成することができました。



「高専リベラルアーツ教育研究会」

高専におけるリベラルアーツ教育のあり方やカリキュラムなどについて講師を招いた研究会を下表のように2回開催し熱心に討議しました。



第1回の様子



第2回の様子

回	開催日	講師・演題	参加者数
第1回	2018年11月20日(火)	原 豊二/ノートルダム清心女子大学文学部准教授(元・本校教員) 「揺れ動く「リベラルアーツ」教育」	教職員5名
第2回	2018年12月13日(火)	宮重 徹也/富山高専国際ビジネス学科教授 「国際ビジネス学科」に関する座談会	教職員9名

論文紹介

- 1) 『日本高専学会誌』第23巻第3号(日本高専学会、2018年7月、pp. 7-12)に、竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介・権田岳の共著による「米子高専のリベラルアーツ談話会の紹介」が掲載されました。
- 2) 『工学教育』第66巻第6号(日本工学教育協会、2018年11月、pp. 98-103)に、竹内彰継・布施圭司・加藤博和・中島美智子・大野政人・堀畑佳宏・辻本桜介の共著による「米子高専のリベラルアーツ談話会」が掲載されました。

スタッフ紹介(2019年度)

役職	氏名	備考
センター長	川邊 博	図書館長・教養教育科教授
副センター長	加藤 博和	教養教育科教授
センター員	田中 晋	広報室長・物質工学科教授
	松本 正己	情報教育センター長・電気情報工学科教授
	布施 圭司	教養教育科長・教授
	竹内 彰継	校長補佐(教務)補・教養教育科教授
	青砥 正彦	教養教育科准教授
	原田 桃子	教養教育科助教
職員	景山 修司	学生課長
	西本 真理	学生課学術情報係長



「高専リベラルアーツ教育研究交流会」

昨年度、津山高専で第1回を開催し、今年度は米子で第2回を開催しました。2019年3月8日（金）に米子コンベンションセンターで、今回新たに松江高専・呉高専にご参加いただき、下記のプログラムで行い、参加者は17名でした。

各高専からの現状報告・意見交換によって共通点や異なる点、独自の課題解決の取り組みなどを知ることができました。研究発表も各高専から1件ずつお願ひし、有意義な会となりました。

参加者の主な感想・意見を紹介します。「他校の現状と実例が参考になった」、「自校の教育について振り返る機会になった」、「情報を共有することは大切だと再確認した」、「意見交換の時間を積極的に設けるとよいのでは」、「具体的な授業の工夫などに関する発表がもっとあればよいと思う」、「教科・科目ごとの交流・情報交換に（あまり交流がない教科・科目について）、この交流会を活用するとよいのでは」、「工学系の専門分野の方からの意見もあれば、内容が広がっていくのでは」、「参加高専数を増やすことと、教養教育以外を担当する専門学科の教員にも参加してもらい、多くの教員にリベラルアーツの必要性を考えてもらえればよいと思う」。(順不同)

今後も中国地区や全国の高専等に呼び掛け、全高専のセンターを目指して発展的に継続開催していく予定です。



基調講演の様子



各高専からの現状報告・意見交換の様子

基調講演

- 米子高専・校長 氷室 昭三
「高専教育におけるリベラルアーツについて」

各高専からの現状報告・意見交換

- ①津山高専 教養教育推進室長 吉田 英治
- ②松江高専 人文科学科長・数理科学科長 森山 恭行
- ③呉 高専 人文社会系分野代表 木原 滋哉
- ④米子高専 教養教育科長 竹内 彰継

研究発表

- ①「津山高専総合理工学科への改組と英語カリキュラム改訂」
山口 裕美
(津山高専・総合理工学科(電気電子システム系)准教授)
- ②「松江高専学生の学習特性とそれに対応した学習支援について」
森田 正利
(松江高専・学生相談室長、人文科学科教授)
- ③「リベラルアーツとアクティブ・ラーニング」
木原 滋哉
(呉高専・人文社会系分野教授)
- ④「米子高専の教養向上の取り組み
—“KOSEN(高専) 4.0” イニシアティブ「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」—」
布施 圭司
(米子高専・リベラルアーツセンター長、教養教育科教授)

編集後記

今年度(2018年度)で本校にリベラルアーツセンターが設置されて3年が経ちました。新制大学発足時に「一般教育」(general education)が導入され、2019年で70年になります。1991年の大学設置基準大綱化後、当時の国立大学で「教養部」廃止が相次ぎました。全学的体制で一般教育の後継の教育が行われるようになりました。高専は1962年に法制化され、「一般科目」を置いています。大学とは異なる高専の「リベラルアーツ」とは何か?その定義をきちんとしていないまま看板を掲げておりますが、いわば自分自身がアクティブ・ラーニングをしているように、学生向けの講演会や教職員対象の研究会などを企画し実施してきました。研究交流会では、高専ごとに特色のある(であろう)一般科目のカリキュラムや組織を前提に連携を図り結びつきを強めることができないかと試み、今回は4高専で開催することができました。高専リベラルアーツに引き続き主体的に関わっていこうと思います。(加)